

(一) 次の文章は、作家の坂口安吾が一九三九年に書いた「茶番に寄せて」である（一部省略した箇所がある）。これを読んで、あとの問いに答えよ。

日本には傑れた道化芝居が殆んど公演されたためしがない。文学の方でも、井伏鱒二という特異な名作家が存在はするが、一般に、批評家も作家も、編輯者も読者も嚴肅で、笑うことを好まぬという風がある。

僕はさきごろ『文体』編輯の北原武夫から、思いきつた戯作を書いてみないかという提案を受けた。かねて僕は戯作を愛し、落語であれ漫才であれ、インチキ・レビユウの脚本であれ、頼まれれば、白昼も芸術として堂々通用のできるものを書いてみせると大言 1 していたことがあるものだから、紙面をさいてくれる気持になったのである。北原の意は有難いが、読者がそこまでついてきてくれるかどうかは疑わしい。けれども僕は、そのうち、思いきつた戯作を書いて、読者に見参するつもりである。

2

然し、諷刺は、笑いの豪華さに比べれば、極めて貧困なものである。諷刺する人の優越がある限り、諷刺の足場はいつも危く、その正体は貧困だ。諷刺は、諷刺される物と対等以上であり得ないが、それが 3 という正当ならぬ方法を用い、すでに自ら不当に高く構えこんでいる点で、物言わぬ諷刺の対象がいつも勝を占めている。

諷刺にも優越のない場合がある。諷刺者自身が同時に諷刺される者の側へ参加している場合がそうで、また、諷刺が虚無へ渡る橋にすぎない場合がそうだ。これらの場合は、諷刺の正体がすでに合理に属しているから、もはや諷刺と言えないだろう。諷刺は本来笑いの合理性を掟とし、そこを踏み外してはならないのである。即ち諷刺は対象への否定から出発する。これは道化の邪道である。むしろ賤物なのである。

正しい道化は人間の存在自体が孕んでいる不合理や矛盾の肯定からはじまる。警視總監が泥棒であつても、それを否定し揶揄するのではなく、そのような不合理自体を、合理化しきれないゆえに、肯定し、丸呑みにし、笑いという豪華な魔術によつて、有耶無耶のうちにそっくり昇天させようというのである。合理の世界が散々もてあました不合理を、もはや精根つきはてたので、突然不合理のまま丸呑みにして、笑いとはして了おうというわけである。

だから道化の本来は

4

だ。そこまでは合理の法でどうか捌きがついてきた。ここから先は、もう、

どうにもならぬ。——という、ようやくと持ちこたえてきた合理精神の歯をくいしばった洗面が、笑いの国では、突然赤禪ひとつになつて裸踊りをしているようなものである。それゆえ、笑いの高さ深さとは、笑いの直前まで、合理精神が不合理を合理化しようとしてどこまで努力してきたか、そうして、とうとう、どの点で兜を脱いで投げ出してしまったかという程度による。

だから道化は戦い敗れた合理精神が、完全に合理を肯定したときである。即ち、合理精神の悪戦苦闘を経験したことはない超人と、合理精神の悪戦苦闘に疲れ乍らも決して休息を欲しない超人だけが、道化の笑いに鼻もひっかけずに済まされるのだ。道化はいつもその一步手前のところまでは笑つていない。そこまでは合理の国で悪戦苦闘していたのである。突然ほうりだしたのだ。もしやくしゃして、原料のまま、不合理を突きだしたのである。

道化は昨日は笑っていない。そうして、明日は笑っていない。一秒さきも一秒あとも、もう笑っていないが、道化芝居のあいだだけは、笑いのほかには何物もない。涙もないし、揶揄もないし、凄味などというものもない。裏に物を企んでいる大それた魂胆は微塵もないのだ。ひそかに裏に諷しているしみつたれた精神もない。だから道化は純粹な休みの時間だ。昨日まで営々と貯めこんだ百万円を、突然バラまいてしまう時である。惜げもなく底をはたく時である。

道化は浪費であるけれども、一秒さきまで営々と貯めこんできた努力のあとであることを忘れてはならない。甚だしく勤勉な貯金家が、エイとばかり矢庭に金庫を蹴とばして、札束をポケットというポケットへねじこみ、さて、血走った眼付をして街へ飛び出したかと思うと、疾風のようにみんな使つて、元も子もなくしてしまったのである。

道化の国では、ビールよし、シャンパンよし、おしるこもよし、なんでもいい。使い果してしまうまでは選り好みなしにO・Kだ。否定の精神がないのである。すべてがそっくり肯定されているばかり。泥棒も悪くないし、聖人も善くはない。学者は学問を知らず、裏長屋の熊さんも学者と同じ程度には物識りだ。即ち泥棒も牧師くらい善人なら、牧師も泥棒くらい悪人なのである。善玉悪玉の批判はない。人性の矛盾撞着がそっくりそのまま肯定されているばかり。どこまで行つても、ただ肯定があるばかり。

道化の作者は誰に鼠屑も同情もしない。また誰を憎むということもない。ただ肯定する以外には何等の感傷もない木像なのである。憐れな孤児にも同情しないし、無実の罪人もいたわらない。ふられる奴にも助太刀しないし、貧乏な奴に一文もやらない。そうかと思うと、ふられた奴が恋仇の結婚式で祝辞をのべ、死んだ奴が花束の下から首を起して突然棺桶をねぎりだす。別段死者や恋仇をいたわる精神があるわけじゃない。万事万端ただ **5** 万象の肯定以外に何物もない。どのような不合理も矛盾もただ肯定の一手である。解決もなく、解釈もない。解決や解釈で間に合うなら、笑いの国のお世話にはならなかった筈なのである。

フランスに『フィガロ』という「都新聞」のような新聞がある。「セビリアの理髪師」や「フィガロの結婚」のフィガロから来た名称らしく、なぜ私が笑うかって言うのですかい。笑わないと泣いちゃうからさ、というフィガロの科白が題字のところに刷りこんである(多分そうだったと思いますよ)。「セビリアの理髪師」や「フィガロの結婚」は却々 **6** の名作だが、ここに引用したような笑いの精神は、僕のとらないところである。世之介の武者振りや源内先生の戯作には、そういうケチな魂胆がない。

一言にして僕の笑いの精神を表わすようなものを探せば、「浜松の音は、ざざんざあ」という太郎冠者がくすねた酒に酔っぱらい、おきまりに唄いだすはやしの文句でも引くことにしようか。「橋の下の葛蒲は誰が植えたしやうぶぞ。ぼろおんぼろおん」という山伏のおきまりの祈りの文句にでもしようか。それ自体が不合理だ。人を納得させもしないし、偉くもない。ただゲタゲタと笑うがいいのだ。一秒さきと一秒あとに笑わなければいいのである。そのときは、笑ったことも忘れるがいい。そんなにいつまで笑いつづけていられるものじゃないことは分りきっているのである。

道化文学は、作者にとっては、趣向がすべてであり、結果としては読者から、笑ってもらうことがすべてなのである。

(注) 1 『都新聞』：一八八四年に創刊され、文芸・演劇面に特色があった新聞。

2 「セビリアの理髪師」「フィガロの結婚」…ともにフランスの劇作家ボーマルシエ作の喜劇。

3 「世之介」…井原西鶴の浮世草子『好色一代男』の主人公。

4 「源内先生」…平賀源内。江戸中期の博物学者・戯作者。

問一 空欄 **1** ・ **5** には、1「実力もないのに大きなことを言うこと」、5「宇宙間に存在するすべてのもの」を意味する漢字四字の熟語の一部が入る。それぞれ楷書で記述解答欄に記せ。

問二 傍線部 a～d の「合理」の中に、本来は「不合理」と入るべきで、このままでは意味の通らない箇所が二箇所ある。次の中から二つを選び、解答欄にマークせよ。

イ a □ b □ c □ d

問三 空欄 **2** には、次の五つの文から構成される一段落が入る。五つの文を正しく並べ替えたとき、三番目に来る文はどれか。次の中から一つを選び、解答欄にマークせよ。

- イ そうして、喜劇には諷刺がなければならぬという考えをもつ。
- ロ ところが何事も合理化せずにいられぬ人々が存在して、笑いも亦合理的でなければならぬと考える。
- ハ 笑いは不合理を母胎にする。
- ニ 無意味なものにゲラゲラ笑って愉しむことができないのである。
- ホ 笑いの豪華さも、その不合理とか無意味のうちにあるのであろう。

問四 空欄 **3** に入る語句として最も適切なものを次の中から一つを選び、解答欄にマークせよ。

イ 諷刺 □ 魔術 □ 道化 □ 擲揄 □ 批判

問五 空欄 4 に入る語句として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 肯定と否定の相剋
- ロ 合理精神の休息
- ハ 人間存在の逆説
- ニ 社会諷刺の隠れ蓑
- ホ 予期せぬ笑いの魔術

問六 傍線部 6 に「ここに引用したような笑いの精神は、僕のとらないところである」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 笑いと涙は表裏一体のものであり、本来の笑いの精神からいえば、笑いのうちに涙を含んでいるものだから。
- ロ 笑いは人類に普遍的な行為であり、フィガロの言葉だけではとても本来の笑いの精神をとらえることができないから。
- ハ 笑いも涙も突発的なもので、なぜ突然泣いたり笑ったりするのか本人にも理由がわからないのが本来の笑いの精神だから。
- ニ 笑いのなかにしか人生の真実はなく、本来の笑いの精神からいえば涙など一滴も入り込む余地は考えられないから。
- ホ 笑いはただおかしいから笑うばかりで、その理由を解釈すること自体が本来の笑いの精神からはずれているから。

問七 傍線部 7 「太郎冠者」、8 「山伏」はいずれも、能楽とともに室町時代に発達した軽妙・滑稽な芸能の登場人物である。その芸能の名称を、楷書で記述解答欄に記せ。

問八 問題文の内容と合致するものとして最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 笑いは不合理の産物だが、その笑いが傑れた道化芝居になるためには合理的な解釈と気のきいた諷刺が必要で、日本には「セビリアの理髪師」や「フィガロの結婚」のような諷刺劇の伝統がないために、傑れた道化芝居が上演されることが少ない。
- ロ 道化というのは、人生の戦いに敗れた合理精神が何もかも投げ出してしまふ瞬間に生れる一瞬の哄笑こそが命で、その瞬間に到達するまでは一切の笑いを禁じられ、修行僧のような難行苦行に悪戦苦闘する不合理な経験を強いられている。
- ハ 諷刺が笑いに比べて貧困なのは、本来対象とは対等であるにもかかわらず、自らを高く構えて対象に優越しようとするからで、この世のあらゆるものを肯定し、不合理を不合理としてまるごと享受する笑いの豪華さにはとても及ばない。
- ニ 笑いに否定の精神がないというのは、すべてをそのまま受け入れるということを意味しているが、そのことを通して憐れな孤児や無実の罪人の存在を世に知らしめ、感傷的にならずに社会的弱者を救済し手をさしのべる契機をもたらしている。
- ホ 道化の国では、あらゆるものの価値が転倒し善悪正邪が入れ代わることで笑いが発生するが、それは道化芝居のなかだけに起こる出来事であって、現実にはありえないからこそ純粹に笑ってその不合理な行為を肯定することができるのである。

問九 問題文の冒頭に名前が出てくる井伏鱒二の小説を次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 浅草紅団
- ロ 風立ちぬ
- ハ 蟹工船
- ニ 山椒魚
- ホ 夜明け前

(二) 次の文章は、萱野稔人『権力の読み方―状況と理論』(二〇〇七年)の一節である(一部省略した箇所がある)。これを読んで、あとの問いに答えよ。

現代のポピュリズム運動には、「国家はわれわれのために治安を守るべきだ」という要求が込められている。一義的には国家のためのものである治安を、なぜ民衆がみずからのために国家に対して要求するのか、あるいは要求できるのか。

じつは、ポピュリズムのこうした要求は国家のひとつの歴史的形態を前提にしている。国民国家とよばれるものがそれだ。国民国家とはまさに、国民として同定された住民全体が国家の主体となるような国家形態にはかならない。いわばそこでは、富を徴収する側と徴収される側とが一体化しているのである。物理的実力を行使する審級とそれによって支配される審級との一致といってもいいだろう。この一致によって、暴力の行使も、税の取り立ても、そして治安の維持も、国家のためだけでなく、民衆のためのもとなる。「われわれのために治安を守れ」という要求を国家にたいしてなすことができるのは、こうした一致を前提とするかぎりにおいてだ。

1 ポピュリズムが依拠する「民衆」は、「国民として国家を担うもの」というコノテーションを必然的に帯びることになる。その「民衆」が人種主義的なアイデンティティをもつ理由もここにある。ある地域の住民が国民として同定されるためには、人種主義的な観念や制度を通過しなくてはならないからである。

もちろん、こうした国家形態は、歴史的には非常に特殊なものだ。ある地域の住民全体が、身分差をもたない同質的なグループとして国家の成員となる政治体制は、国民国家以前にはほとんど存在したことがなかった。それまでの歴史の「常識」では、国家をになう軍事集団(貴族や武士など、かれらは富を生産する活動に従事する必要がない)とそれ以外の住民のあいだには乗り越えがたい身分的な差異が穿たれており、両者のあいだの融合は本来的にはありえなかった。国民国家は、その身分的な差異をとり払うことで、住民たちを同質化し、潜在的な国家暴力の担い手としたのである。さまざまな制度がそのために創設された。国語の制定、徴兵制、義務教育、普通選挙制、そして不平等や生活格差を是正しながら住民の生存をささえるための社会保障制度。これらの制度が漸進的に導入されることで、民衆と国家が一体化するような政治体制は形成されていったのである。

とはいえ、その形成プロセスは、民衆にとつて、軍役を強要されるということだけではおさまらない「ポジティブな」側面をも含んでいたということには注意しておこう。

3 国民化を通じて民衆は、国家の決定過程に建前的にせよ参加することができるようになり、場合によっては国家機構の役割につくこともできるようになった。また、たんに富を徴収されるだけでなく、国家の成員として生存の保障がある程度は国家からうけられるようになった。そしてなによりも、国家の実力行使の主体となることで、国家がもちいる暴力に正面から対峙させられる必要がなくなった。国家の物理的実力にたいする全面的な服従か、死をかけた反抗か、という二択状態からの脱出である。

要するに、国民となった民衆は、もはや受動的な被支配者であることをやめ、国家がつくるセキュリティをみずからのもものとして「4」ことができるようになったのである。くりかえせば、ここでいうセキュリティとは、たんに治安という意味でのセキュリティだけでなく、不慮の事態にたいする生活の保障という意味でのセキュリティでもある。また他方では、国家のほうも、国民的な形態へと生成することで、多くの民衆をみずからの実力行使へと動員することができるようになった。これは、国家の物理的実力を増強させるという効果をもつだけでなく、内戦のリスクを大幅に減らす。民衆の大部分が国民として国家の側につくことで、国家による合法的暴力の独占はより安定化するからだ。国家はもはや民衆を支配するためにかれらと対立する必要がない。フーコーがコレージュ・ド・フランス^(注2)での講義で述べたように、国家は「社会からみずからを防衛する」ことをしなくてもよくなるのだ。

国家の国民化のプロセスとは、暴力にもつづいた支配が、ますます不可視に、「⁵穏和」⁵になっていくプロセスであった(残酷で見世物的な身体刑がなされなくなったのはそのためだ)。民衆たちが国家と一種の「セキュリティ協定」をむすぶことができるようになったのは、まさにこうしたプロセスにおいてである。

現代のポピュリズムが体現しているのは、国家と民衆のあいだに「6」にむすばれてきたセキュリティの絆を、民衆の側から締め直そうという運動にほかならない。しかしじつは、こうした民衆からの要求じたい、国家がもはや国民的なものではなくなりつつあることのひとつのあらわれだ。国家はいまや、国民全体の生存条件をめぐるセキュリティ

の保障にますます無関心になっている。

二つの大きな要因があるだろう。

一つは、国家の物理的実力をささえるテクノロジーのさらなる発達である。軍事装置の超ハイテク化は、国家の軍事行動のために国民全体が動員される必要性をなくしてしまった。ますます加速するEU諸国のあいだの軍事統合が示しているのは、国民という単位で担うには現在の軍事テクノロジーはあまりに高度で強大である、ということにほかならない。

この点で、近代徴兵制をつくりだしたフランスで二〇〇一年に徴兵制が廃止されたのは象徴的なできごとである。徴兵制でおこなわれていたのは武器の使い方の習得だけではない。識字率の検査や、基礎科目の再教育、規律をつうじた生活習慣の改善、といった「生活のメンドウ」も同時になされていた。徴兵制はコストがかかるわりには、現在のハイテク軍事が要請するような兵士を育成できない。

また二つ目の要因として、国家が徴収すべき富が生産される様態の変化がある。経済活動のグローバル化と抽象化は、領土内における民衆全体を質のよい労働者へと育成しながら生産性を向上させるというやり方を無効にしつつある。工場は経費の安い国外へと移転し、領土内には労働者をつかう場は減少している。いまや富の徴収にとって重要なのは、自国にある企業の指揮本部と国外の生産拠点、そして市場をつなぐネットワークを防衛することであり、また、浮動性のたかい金融資産が国外へと流出しないよう資本所得にたいしては減税をしながら、流動性のひくい民衆の生活にかかわる福祉的な税制上の配慮（いわゆる再分配政策）をなくしていくことである。

国家はいまや、軍事的にも経済的にも、国民という形態に依拠する必要から脱しつつあるのだ。国家にとつて、領土内における住民全体の生存条件を整えることは、見返りのすくない非効率的な作業となりつつあるのである。

ポピュリズムによる「国家への呼びかけ」は、現在の国家の脱国民化にたいするひとつの反作用にほかならない。その運動をうみだしている不安感は、国民国家のもとでむすばれていた民衆と国家のセキュリティ上の絆がほころびつつあることに起因している。そのほころびをむすび直そうとして、ポピュリズムは、国民であるための核となる人種的アイデンティティへとますます傾斜しているのだ。

(注) 1「フーコー」：ミシェル・フーコー（一九二六—一九八四）。フランスの哲学者。

2「コレージュ・ド・フランス」：フランスの国立特別高等教育機関。フーコーはここで教授を務めた。

問十 この文章が議論の前提としている「ポピュリズム」の例として適切でないものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ デモ行進を通じて市民が政治的要求を達成しようとするありさま。
- ロ より過激な言葉遣いをする政治家ほど世論の支持を集めるありさま。
- ハ 移民労働者に対する排外主義政策が民衆の広範な支持を得るありさま。
- ニ 治安が悪化しているという感覚に基づき人々が監視強化を求めるありさま。
- ホ 社会的弱者の境遇は自己責任の結果だとする世論が社会に蔓延するありさま。

問十一 空欄 1 ・ 3 に入る語句として最も適切なものをそれぞれ次の中から一つずつ選び、解答欄にマークせよ（同じものを選んでほならない）。

- イ なお
- ロ ただし
- ハ たとえば
- ニ したがって
- ホ しかしながら

問十二 傍線部2の漢字の読みをひらがなで、傍線部7「メンドウ」の漢字を楷書で、記述解答欄に記せ。

問十三 空欄

4

に入る語句として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ あてにする
- ロ うけいれる
- ハ したがえる
- ニ のりこえる
- ホ ひきうける

問十四 傍線部5の「穏和」

に筆者がカギカッコを付けた理由を述べる文を、記述解答用紙の空欄を補うかたちで完成させよ。その際、次の条件にしたがうこと。

- ・全体を「国家の国民化のプロセスで起こることは、一見すると、その実態は」と考えているから。」という形式の一つの文にまとめること（太字の部分はあらかじめ解答用紙に記してある）。
- ・記入欄は、「二見すると」で始め、途中に「その実態は」の語句を用い、「と考えているから。」で終えること。
- ・記入欄には四十字以上五十字以内で記し、句読点も字数に含めること。

問十五 空欄

6

に入る語句として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 国民的
- ロ 惰性的
- ハ 熱狂的
- ニ 必然的
- ホ 歴史的

問十六 本文の内容に合致する文として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 昨今の人種主義にもとづく差別の蔓延は、国民国家という体制のなかで偶然に生まれてしまった病である。
- ロ 経済のグローバル化によって起こった生産拠点の海外移転は、国民に与えられるべき福祉のリソースを流出させている。
- ハ 国民が、いずれは自らの首を絞めるような政策を支持し始めているのは、国家形態が次の段階に移行する前触れである。
- ニ 人間社会は進歩によって国民国家という形態を生み出したが、同時に国家はそれを維持するために暴力を占有するようになった。
- ホ コンピュータ・ネットワークを介して行われるサイバー戦争のような軍事テクノロジーの高度化は、国民を兵士として動員する理由を失わせた。

(三) 次の甲・乙を読んで、あとの問いに答えよ。

甲〔次の文章は、『徒然草』の第二百三十八段である。なお原文を改めた箇所、省略した部分がある。〕

御隨身近友が自讃とて、七箇条書きとどめたることあり。みな馬芸、させることなきことどもなり。その例を思ひて、自讃のこと七つあり。

一、人あまた連れて花見ありきしに、最勝光院の辺にて、男の馬を走らしむるを見て、今一度馬を馳するものならば馬倒れて落つべし、しばし見給へとて立ちとまりたるに、また馬を馳す。とどむる所にて馬を引き倒して、乗る人、泥土の中にころび入る。その詞の誤らざることを人皆感ず。

一、当代(注1)はまだ坊におはしまししころ、万里小路殿御所なりしに、堀川大納言祇候し給ひし御曹司へ、用ありて参りたりしに、論語の四五六の巻をくりひろげ給ひて、ただいま御所にて、悪紫之奪朱也といふ文を御覽せられたきことありて、御本を御覽ずれども御覽じ出だされぬなり、なほよく引き見よと仰せごとにて求むるなりと仰せらるるに、九の巻のそこそのほどに待ると申したりしかば、あなうれしとて、もてまイみじく自讚したるなり。後鳥羽院の、御歌に袖と袂たもとと一首のうちAにあしかりなむやと、定家卿に尋ね仰せられたるに、「秋の野の草の袂か花すすき穂に出でて招く袖と見ゆらん」(古今和歌集・秋上・在原棟梁ちぢやと侍れば何事か候ふべきと申されたることも、時にあたりて本歌を覚悟す、道の冥加なり高運なりなど、ことごとしく記し置かれ侍るなり。

一、常在光院の撞つき鐘の銘は、在兼卿の草なり。行房朝臣清書して、鏤型に模うつせんとせしに、奉行の入道、かの草を取り出でて見せ侍りしに、花外送夕 声聞百里といふ句あり。陽・唐の韻と見ゆるに、百里(注2)誤りかと申したりしを、よくぞ見せ奉りける、おのれが高名なりとて、筆者のもとへ言ひやりたるに、誤り侍りけり、数行と直さるべしと返事侍りき。数行も如何なるべきにか。もし数歩の心か。おぼつかなし。【D】

一、人あまたともなひて、三塔巡礼(注1)のこと侍りしに、横川よかはの常行堂のうち、龍華院と書ける古き額あり。佐理・行成の間疑ひありていまだ決せずと、堂僧 E 申し侍りしを、行成ならば裏書あるべし、佐理ならば裏書あるべからずと言ひたりしに、裏は塵積もり虫の巢にていぶせげなるを、よく掃はきのごひて、おのおの見侍りしに、行成、位署・名字・年号さだかに見え侍りしかば、人皆興に入る。

一、那蘭陀寺にて、道眼聖、談義せしに、八災といふことを忘れて、これや覚ハえ給くふと言ひしを、所化(注5)、皆覚えざりしに、局の内より、これこれにやと言ひ出だしたりければ、いみじく感じ侍りき。

一、頭助僧正に伴ひて、加持香水を見侍りしに、いまだ果てぬほどに、僧正帰り出で侍りしに、陣(注6)の外まで僧都見えず法師どもを帰して求めさするに、同じさまなる大衆多くて、え求めあはずと言ひて、いと久しくて出でたりしを、あなわびし、それ求めておはせよ(注2)と言はれしに、帰り入りて、やがて具して出でぬ。

一、二月十五日、月あかき夜、うち更けて千本の寺に詣でて、後より入りて、ひとり顔深く隠して聴聞し侍りしに、優なる女の、姿にほひ人よりことなるが、わけ入りて膝ひざにかかれば、にほひなども移るばかりなれば、便あしと思ひてすりのきたるに、なほる寄りて同じ様なれば、立ちぬ。その後、ある御所さまの古き女房の、そぞろこと言はれしついでに、無下Fに色なき人におはしけりと、見おとし奉ることなんありし、情なしと恨み奉ホる人なんあるとのたまひ出だしたるに、 G と申してやみぬ。このこと、後に聞き侍りしは、かの聴聞の夜、御局の内より、人の御覽じ知りて、さぶらふ女房を作り立てて出だし給ひて、便よくは言葉など懸けんものぞ、その有様参りて申せ、興あらんとて、はかり給ひけるとぞ。

(注) 1 「当代」…後醍醐天皇。なお「坊」は、「東宮坊」のこと。

2 「百里誤りか」…銘文は多く四字句から成り、偶数句で押韻する。「里」は陽・唐の韻字ではないため、押韻の間違いを指摘した。

3 「数行」…「行」は、「ツラナル」の意では陽・唐の韻だが、「メグル」の意では異なる韻(庚・耕・清の韻)となる。

4 「三塔巡礼」…比叡山の東塔・西塔・横川を巡礼すること。

5 「所化」…弟子の僧。

6 「陣の外」…内裏の門外。なおここに記述される修法は、内裏で行われたと考えられる。

問十七 問題文甲の傍線部A・C・Fの意味として最も適切なものを、それぞれ次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- A イ 著名な和歌に袖と袂を交えて一首に仕立てた例があったはずだが
- ロ あなたの和歌に袖と袂とを一首に詠み込んだ作があったはずだが
- ハ 『古今集』中の袖と袂とを一首に詠んだ歌を覚えていたのだろうか
- ニ 私の和歌に袖と袂とを一首に詠み込むのはよくないことだろうか
- C イ どうか十二分に見分しただきたい、これはあなたの責任である
- ロ よくぞあなたはお認めになった、あなたの素晴らしい名譽である
- ハ 都合よくあなたにお見せをしたものだ、これは私の手柄である
- ニ うまい具合に私に指摘してくださった、私は実に幸運である
- F イ ひどく無粋な御方でいらっしゃったと、軽蔑申し上げたことがあった
- ロ 全く目立たぬ人でいらっしゃったから、お見付けできないことがあった
- ハ やけに顔色の悪い人でいらっしゃって、お見捨て申し上げたことがあった
- ニ たいそう無欲な方でいらっしゃったために、ついついふざけたことがあった

問十八 問題文甲の波傍線部イ、ホの敬語のうち、兼好を対象とする敬意を表すものが二つある。適切なものを選び、解答欄にマークせよ。

- 問十九 問題文甲の傍線部Bの和歌について述べた説明のうち、適切でないものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。
 - イ 「袂」と「袖」が意味の近い語であることは、とくに意識されず詠み込まれている。
 - ロ 秋の野の植物を擬人化することによって、見立て表現のおもしろさが狙われている。
 - ハ 「袂」と「袖」とが、一首の主文脈とはまったく無関係に縁語関係を形作っている。
 - ニ 歌末の助動詞「らん」は、すすきの穂がひとを招く袖に見える理由を推量している。
 - ホ 「穂に出でて」には、すすきの穂が出る意と、あからさまにの意が掛けられている。

問二十 『徒然草』の伝本の中には、問題文甲の第三箇条の末尾【D】の位置に後人の書き入れかと思われる「教行なほ不審。数は四五なり。鐘四五歩いくばくならざるなり。ただ遠く聞こゆる心なり」という注記を加えるものがある。この注記は何を指摘していると考えられるか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 「教行」の韻字が、このように改訂してもなお問題が残ることを、具体的に指摘している。
- ロ 「教行」の字義に対する疑問を敷衍し、その改訂でも不適切であることを指摘している。
- ハ 「教行」の「教」の意味を明らかにすることで、兼好の見識の卓抜さを指摘している。
- ニ 「教行」の改訂が、十分な吟味を経ず拙速に行われたことへの不審を指摘している。
- ホ 「教行」の表現は、本来この位置に来るべき内容に相応しいことを指摘している。

問二十一 問題文甲の空欄【E】に入るのに最も適切な連用修飾語を、問題文甲の第一箇条から第三箇条までの範囲に見出し、それをそのまま記述解答欄に書き抜け。ただしその語は、五字以上の一語とする。

問二十二 問題文甲の空欄【G】には、左の五つの語を組み合わせた語句が入る。活用語は正しく活用させ、すべての語を適切につなげて、記述解答欄に記せ。

心得【動詞】 こそ【係助詞】 さらに【副詞】 ず【助動詞】 侍り【補助動詞】

問二十三 問題文甲の内容と合致するものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 兼好は、近友以来の馬芸の極意を伝承しており、落馬を予見することができた。
- ロ 兼好は、漢籍のみならず歌の知識にも通暁しており、堀川大納言の信任を得た。
- ハ 兼好は、詩人としての才に恵まれ、銘文等の添削を依頼されること度々だった。
- ニ 兼好は、迷子の人をすぐさま探し出せるほど、内裏の中の様子を知悉していた。
- ホ 兼好は、色恋の手管にたけており、美しい女性からの誘いには積極的に応じた。

問二十四 兼好に関する説明として正しいものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 座の文芸である連歌を好み、『新撰菟玖波集』の編集を補助した。
- ロ 吉田神社の神職の家に生まれ、後鳥羽院にあつく信任された。
- ハ 『万葉集』を深く研究し、『古来風体抄』で初めて全歌に訓を施した。
- ニ 足利尊氏の執事・高師直に仕え、『太平記』をきびしく批判した。
- ホ 定家の子孫である二条家門下の歌人として、高く評価された。

乙〔問題文甲の冒頭に見える「御隨身近友が自讃」七箇条は、すべて「馬芸」に関するものであったという。『古今著聞集』巻十には、「馬芸」に関する話題がまとめて収載されている。次に示すのは、その中の一話を漢文体にした『大東世語』（江戸時代の服部南郭の撰）の話である。なお、問題に関連する箇所の送り仮名、返り点は省いてある。〕

競馬人左将曹尾張兼時、右将曹敦行、為耦馳逐。兼時轡靶数脱、而不墮。然亦終以此後。乃問敦行曰、未審不勝者宜向何方。衆悦其言、更多纏頭。

(注)「競馬」：くらべうま。

「将曹」：近衛府の四等官。

「轡靶」：くつわと手綱。

「纏頭」：祝儀。

問二十五 問題文乙の傍線部A「為耦馳逐」はどのような意味か。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 「耦」は「隅」に意味が通用し、馬場のすみずみまで馬を駆ること。
- ロ 「耦」は「偶」に意味が通用し、一対となって馬を競いあわせること。
- ハ 「耦」は「遇」に意味が通用し、対戦者を厚く遇して馬を競わせること。
- ニ 「耦」は「寓」に意味が通用し、隣り合わせに寓居して馬を競いあうこと。
- ホ 「耦」は「藕」に意味が通用し、蓮の根のように縦横無尽に馬を駆けること。

問二十六 問題文乙の傍線部B「此」はどのような内容を指すか。問題文乙の中から適切な一文を抜き出し、その冒頭の二字を記述解答欄に記せ。

問二十七 問題文乙の傍線部C「不勝者宜向何方」を書き下し文にあらため、全文ひらがなで書くとうなるか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ かたざるはいづれのかたにむくをよろしとす
- ロ かたずんばいづれのかたにむくもよろしからん
- ハ かたざるものよろしくいづれのかたにむかふべき
- ニ かつものにあらざればいづれのかたへむくもよろし
- ホ かつものはいづれのかたにむかふもよろしからざらん

問二十八 問題文乙の傍線部Cに対して、服部南郭は「兼時競馬未嘗有後」と注記をつけている。この注記の意味の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 「兼時 競馬 未だ嘗て後ること有らず」と書き下し文にすることができ、兼時が競馬で負け知らずだったことを意味する。

ロ 「兼時 競馬 未だ嘗て後有らず」と書き下し文にすることができ、兼時が競馬で負け続けて、後がなかったことを意味する。

ハ 「兼時 競馬 未だ嘗て後ること有らず」と書き下し文にすることができ、兼時が試合に遅れたことがないことを意味する。

ニ 「兼時 競馬 未だ嘗て後有らず」と書き下し文にすることができ、兼時の後塵を拝して駆ける馬がなかったことを意味する。

ホ 「兼時 競馬 未だ嘗て後ること有らず」と書き下し文にすることができ、兼時がいつも先手必勝で臨んだことを意味する。

問二十九 問題文乙の傍線部D「衆悦其言」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 人々は、兼時が敦行に「不勝者宜向何方」と教えた勝者の闊達な言動に感嘆した。

ロ 人々は、兼時が敦行に「不勝者宜向何方」と論じた強者の厳格な発言に感嘆した。

ハ 人々は、兼時が敦行に「不勝者宜向何方」と尋ねた敗者の率直な言動に感嘆した。

ニ 人々は、兼時が敦行に「不勝者宜向何方」と聞いた弱者の感慙な発言に感嘆した。

ホ 人々は、兼時が敦行に「不勝者宜向何方」と質した勇者の豪胆な言動に感嘆した。

〔以下 余白〕